

(三月の言葉 (令和八年))

「愚」を生きる

「法然上人は、『浄土の教えを生きている人は、

“愚者になって” 往生するのです』とおっしゃった」

この言葉は、親鸞聖人が八十八歳の時に門弟に出された手紙の中に出てきます。

私たちは、少しでも賢くありたいために、少しでも人に勝ちたいために、また有名になりたいために勉強や仕事に励みます。誰もが愚かな人間だと思われたくありません。では、この “愚者になって” とはどのようなことなのでしょうか。

愚か者にわざわざ自分からなるということではありません。人間そのものにそなわっている徹底した愚かさを自分自身を知ることなのです。それはまた同時に、自身の愚かさを知らせてくださった阿弥陀さまの本願ぐちよくを愚直ぐちよくに信じるということでもあります。

このように、「愚」には「愚かさを知ること」と「愚直であること」の二つの意味があります。